

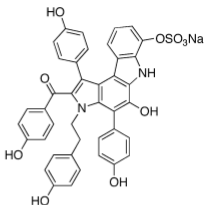
# 26PW-am001

## Dictyodendrin Bの合成研究

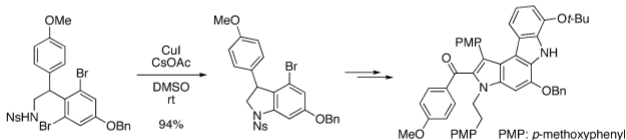
○岡野 健太郎<sup>1,2</sup>, 福山 透<sup>2</sup>, 徳山 英利<sup>1,2</sup> ( <sup>1</sup>東北大院薬, <sup>2</sup>東大院薬 )

【背景・目的】 Dictyodendrin 類は 2003 年、伏谷らにより海綿 *Dictyodendrilla verongiformis* から単離、構造決定された新規化合物であり、強力なテロメラーゼ阻害活性を持つことが知られている。<sup>1</sup> われわれは本化合物群の生理活性と特異な構造に興味を持ち、dictyodendrin B (**1**) の効率的な合成を目的として本研究に着手した。

【方法・結果】 予備的検討において、独自に開発した芳香族アミノ化反応<sup>2</sup>を鍵反応として**1**の四環性コア骨格の構築に成功している。現在、パラヒドロキシフェニル基の導入をはじめとして全合成に向けた検討を行っている。



Dictyodendrin B (**1**)



【参考文献】 (1) (a) Isolation: Fusetani, N. *et al. J. Org. Chem.* **2003**, *68*, 2765. (b) Total Synthesis: Fürstner, A. *et al. J. Am. Chem. Soc.* **2006**, *128*, 8087 and references cited therein. (2) Fukuyama, T. *et al. J. Am. Chem. Soc.* **2006**, *128*, 7136 and references cited therein.